



申15号 「現業機関における柔軟な働き方の実現について」に関する 説明申し入れ 第1回団体交渉を行う！ その②

2. 日単位及び時間単位での柔軟な働き方について、どのように安全レベルの向上を実現し、技術・技能継承できる体制を構築するのか明らかにすること。

組合 安全レベルを向上させる施策なのか？

仕事が多様化することで、気持ちの切り替えや疲労などを考えると集中力が散漫となり、安全レベルは向上しないのではないか？

柔軟な働き方になることで、やったことのない業務にあたることもでてくる。

安全体制の確立・維持を目指し、各系統のプロをつくる考え方はあるのか。

乗務員の養成や、各種資格取得なども安全、技術継承に重要だ。

会社 安全はトッププライオリティ。安全・サービスレベルの向上はしていかなければならない。今でも業務の融合は図られてきている中、安全・サービスのレベルが下がったと認識していない。様々な視点を持つことで安全レベルは向上する。

一つの仕事に集中することが安全レベル向上とは限らない。適度な変化は必要だ。複数の業務を担っていても目の前の業務に集中して担っている。これまでもそのように行っている。

業務の役割分担を見直す機会にもなるだろう。ルールに則って教育して実施していく。ルールを守ることが柔軟になってはいけない。

系統という壁をいい意味で乗り越えていかなければならないが、各業務には精通してもらわないといけない。業務のプロは必要だと考える。

乗務員養成は今までと変わることなく行っていく。資格を要する業務にあたるための必要な教育も変わらず行っていく。

3. 現業機関における柔軟な働き方を実現することで、どのように社員のモチベーション向上を実現するのか明らかにすること。

組合 社員のモチベーション向上が最大の目的と言われているが高まるのか。

多様性が求められる働く側からすると、労働密度が高まり、モチベーション向上にはならないという声がある。

多様な業務のスキルを身につけるには多くの努力が必要だ。

会社 作業ダイヤに縛られていて社員の持っているポテンシャルが発揮しにくいところがあると考えます。ポテンシャルを十二分に発揮できる環境を整えていく。社員のニーズに伝えていく。

当社の社員は旺盛なチャレンジ精神を持っている。活躍のフィールドを広げて生産性向上していかなければならない。輸送サービスだけでなく活躍を期待している。社員の中にはつらい業務と思う人もいると思うが、やって良かったとなってもらうようにしていきたい。

仕事の仕組みを変えることは労力がかかり大変であるが、変えていかなければならない。厳しい経営環境を乗り越えていくには体力をつけていかなければいけない。

鉄道の安全を支えてきた、各系統の技術・技能を継承できる職場をつくり出そう！ その③へ